

沢は出合に6mの滝を落し、その上に4段12mの滝を続けて落している。これを越えると大岩の河原となり、石越えの連続である。その先F14 5m(本カゴ沢F3)は、右岸の草付を強引に越える。本カゴ沢駒形沢出合付近からは石も小さくなり、河原となっている。左岸がなだらかな側壁をなしているのと対象的に、右岸はガレている。小滝を越えると、左岸からナメ滝が落ち、上部はブッシュである。2日間の緊張がほぐれたせいもあって、これが駒形沢と入カゴ沢の分岐とは気づかず、また確認もおこたったまま、予定の駒形沢でなく、入カゴ沢に入ってしまった。これより沢(入カゴ沢)は、トヨ状15mの滝を落し、水量も減り、ついにはカレ沢となってダイグラ尾根登山道へとつきあげている。

今回の山行の目的の1つは、沢筋からのピークハントでもあったので、11:10飯豊本山にたつ。下山路はダイグラ尾根を使用。17:45落合に下山。18:10温身平に着き、山行を終える。

(記。)

飯豊・大白布沢

1981年9月13～14日

L

9月13日 雨のち曇。 福島(7:00)③御沢(10:20, 10:40)——入溪(11:15)——下ノモグラ沢出合(14:10)——~~後継~~登山道(16:45)——三國小屋(17:20)

御沢には予定より早く着いた。車を置いて出発。砂防ダムの先で右岸に渡り、歩道が再び沢にもどった所より入溪

すぐ小滝があらわれ、ゴルジュとなる。F1 6m。右岸のガリー状を捲く。西さんは右岸をトラバース気味に登ったが、かなりきつかったようである。3m小滝を越えるとF2 20m上部ナメ状の滝。左岸に登る。ザックをつけたままだときついのでから身で登り、ザックを引き上げる。滝の途中にて小休止して昼食。この先は平凡な河原状となる。

左岸から右岸へ先ほどの道が横切っている。右岸に小屋跡らしいものがある。沢が右に曲がり込んだ所にF3, 4, 5と続いている。F3 8mのところ、左岸に

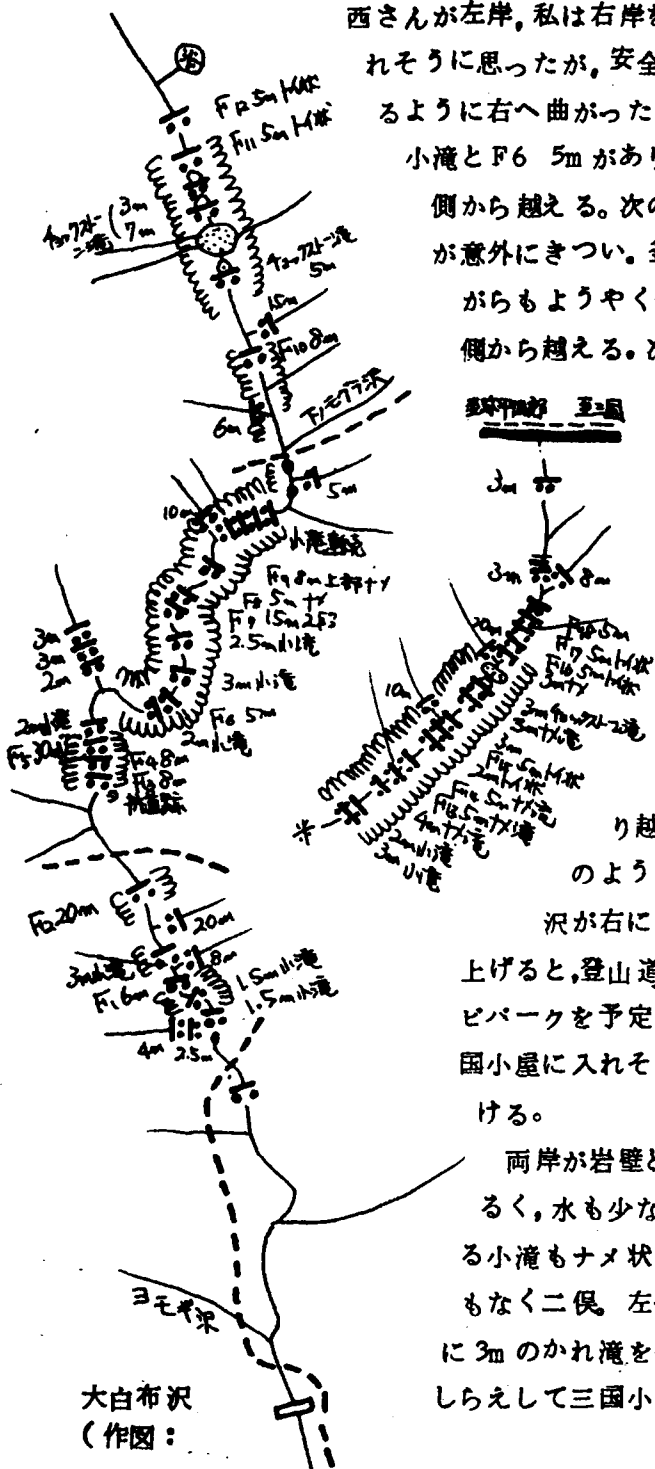
坑道跡のような穴がある。右岸を直登。次のF4 8mは西さんが左岸、私は右岸に登る。F5 30mは左岸を登れそうに思ったが、安全を期して右岸を捲く。沢が戻るように右へ曲がったあと、左へ曲がり返した所に小滝とF6 5mがあり、右側を直登。次の小滝は左側から越える。次の小滝は右から越えるが、これが意外にきつい。釜のトラバースで、ふらつきながらもようやくへつり終えた。F7, F8は右側から越える。次々と小滝を越えて14時10分、下ノモグラ沢出合着。

下ノモグラ沢 出合

左岸の道は、ここで下ノモグラ沢左岸の小尾根上を松ノ木尾根に向けて上っている。F10 8m 2条の滝を越えると、前方にスノーブリッジが見えてくる。下をくぐりぬけることもできそうに思えたが、右側を乗り越える。F12 5m。まるで石垣のような印象の滝。

沢が右に曲がる所で、左岸尾根上を見上げると、登山道らしいものが見える。沢中でビバークを予定していたが、明るいうちに三国小屋に入れそうなので、そのまま遡行を続ける。

兩岸が岩壁となり、廊下状となったが、明るく、水も少なくなってきた。次々と現われる小滝もナメ状やトイ状。雪渓を越えるとまもなく二俣。左へ入る。すぐ水もかれ、最後に3mのかれ滝を登り登山道に出る。少し腹ごしらえして三国小屋へ。



大白布沢
(作図:)

9月14日 小雨時々曇。 三國小屋(6:05)——本山小屋(8:05)——
三國小屋(10:20)——御沢(12:35)——福島(16:30)

小雨の合間をぬうようにして、空身にて本山往復。地藏にて昼食をとり、あとは御沢まで一気に下る。

大滝沢大滝登攀

1981年8月2日

L

9:00大滝に到着。まずは滝の状況を見て、ルートの検討をやる。滝全体としてみれば、正面左は約80mの高度差で滝を落す。下部は立っており、水量も多くて、沢水でもかれなければ登るのは不可能に思われる。真中部分は水もなく登れそうであるが、初のアタックなので次の機会としよう。右側は細く滝水を落すが、都合よさそうなバンドもある。今回はここを登ろう。取り付くにあたりあまり水にあたることもなさそうだ。斜めに走る2本のバンドに取り付き、右の滝水のわきを越し、2本目のバンドの終点にて1ピッチを切る。その上のちょうど3分の2の

